



令和7年度 東京都立田無工科高等学校
学校経営報告

東京都立田無工科高等学校
校長 町田 康広

1 令和7年度学校経営計画の実施状況（概要）

本校は、東京都教育委員会による Next Kogyo START Project による工業高校改革に向けた様々な施策の推進およびデュアルシステム導入校・学力向上研究校の指定を受け、活動内容の充実と実施体制の整備を図るとともに、以下の項目毎に活動内容を設定し学校経営を行った。

- (1) 人格の陶冶に取り組み、社会人としての資質と規範意識を育む。
- (2) 基礎的・基本的な学力を身に付けさせるとともに、自己の将来を見据え努力する社会人を育成する。
- (3) 心身における健康維持の重要性を理解し、適切に自らの健康管理ができる社会人を育成する。
- (4) 工業に関する知識や技能・技術を身に付けさせるとともに、専門性を有し社会に貢献する技術者を育成する。
- (5) 工業教育の充実を図り、工業技術者の裾野を広げる。デュアルシステムは本校独自の体制を構築し、長期就業訓練の派遣にあたっては、生徒の希望とのマッチングを図り、参加率向上を目指す。

2 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

取組目標	具体的取組(方策・目標)	成果と課題
学校経営 組織体制 の充実	①施設開放、出前授業などにより教育機能を広く公開し都民サービスに貢献する。 ②関係機関及び地域と連携したボランティア活動の取り組みを一層充実させ、社会貢献と豊かな心を育む。 ③「生徒による授業評価」による校内研修の実施、教職員の相互の授業観察を促進するなどして指導方法や指導内容の工夫・改善、指導計画の見直しを図り、授業力向上に努める。 ④学校経営計画の実現に向け、企画調整会議、主幹会議、職員会議、各種委員会の運営を促進する。 ⑤個人情報の安全管理に関する基準を遵守し、個人情報の保護・管理を徹底する。 ⑥保健相談部、特別支援コーディネーターを中心に関係機関と連携し、組織的な特別支援教育を推進する。 ⑦ものづくりを通じた障害者・高齢者への理解教育を推進する。	① 施設開放は予定通り実施することができた。出前授業についても中学校の要請に応じて対応できた。 ② 西東京市にヘルメット・バットスタンドの寄贈、また、田無駅周辺清掃活動や西東京市民祭り等に参加し連携を図った。同時に、生徒に達成感、成就感を味わわせることができた。 ③ Teamsを活用した授業評価を年2回実施し、詳細の分析結果を基に授業改善への取り組みを行った。 ④ 各会議の定例開催を実施し組織的な運営に取り組んだ。 ⑤ 日常的な注意喚起の継続および校内研修会を実施し、事例研究等を通じて個人情報の保護。管理に取り組んだ。 ⑥ 情報共有会を年間5回実施し、SCの助言を受けながら対応にあたった。 ⑦ 田無特別支援学校と連携を図り、コップ用コースター、スマートフォン用スタンド、手作りパズル等の提供を行った。【B】

<p>学習指導の充実</p>	<p>①各教科は、年間授業計画の確実な実施に向け、週ごとの指導計画を作成して生徒理解度を把握し、適切な対応を行う。</p> <p>②授業規律を確立し、わかり易く・丁寧な授業を行い、基礎・基本を確実に身に付けさせる。</p> <p>③日々の授業において、定期テスト・小テスト・提出物を計画的に実施し、生徒の学習状況を把握するとともに、組織的指導を行う。</p> <p>④「生徒による授業評価」や教員相互授業観察を促進し、授業力向上を図る。</p> <p>⑤教員の授業力を高め、デジタル技術を活用した教育の推進に取り組む</p> <p>⑥グローバル社会に対応した人材の育成のためJETなどを活用し、英語教育の充実を図る。</p> <p>⑦学習意欲の向上をさらに図るために、資格取得・検定合格・コンクール入賞などに向けた指導を充実させる。</p> <p>⑧基礎体力の向上を図るとともに、東京都統一「体力テスト」を実施する。</p> <p>⑨ものづくりを通じた障害者・高齢者への理解教育を教育課程に位置づけ、推進する。</p>	<p>① 各教科は指導計画に基づき授業を実施し、取組状況から生徒の理解度を把握。必要に応じ課題や補習・補講を実施した。</p> <p>② 授業規律週間を学期毎に設け、授業に集中できる環境づくりに取り組んだ、また習熟度別授業等により、生徒の学力に応じたわかりやすく丁寧な授業を実践した。 学校評価アンケート結果：生徒による授業満足度の肯定回答率91%</p> <p>③ 年間を通じた学習状況把握で、組織的な指導に取り組み成果をあげた。</p> <p>④ 生徒による授業評価はTeamsを活用して分析し、授業者へのフィードバックを行うことで、授業改善に繋げた。</p> <p>⑤ 教員全体のICT活用能力推進に取り組み、オンライン学習デーにおいては、双方向のオンライン授業を実施した。</p> <p>⑥ JETを最大限活用し、「After School English Time」という放課後の英語活動を通して、英語に興味のある生徒の力をさらに深められるように、コミュニケーションに特化した英語活動を実施。(34回)</p> <p>⑦ 外部講師等を活用し、年間を通して各種資格取得に向けた補習・補講を行った。</p> <p>⑧ 東京都の平均以上を目標としたが、全体的に平均を下回ってしまった。</p> <p>⑨ 田無特別支援学校へのコップ用コースターや手作りパズル等、ものづくりを通じた連携を継続できた。【C】</p>
<p>生活指導の充実</p>	<p>①身だしなみ（髪型・服装）指導や全体集会・学年集会などを実施し、地域から信頼される態度・行動・言動ができるよう指導する。</p> <p>②学級担任を中心として生徒の実態を適切に把握し相談活動を行い、生活環境を整える。</p> <p>③いじめや暴力を許さない環境を作る。</p> <p>④教職員自ら挨拶を行い、明るく楽しい学校の雰囲気づくりに努め、生徒の健全育成及び欠席・遅刻・早退の減少に取り組む</p> <p>⑤「ものづくり人材育成プログラム推進校」として、講演会・講習会をとおしてものづくり人材の育成を推進する。</p>	<p>① 授業規律週間を学期に1回実施し、生徒の学習態度の改善に取り組んだが、指導に従えない生徒の対応に苦慮した。</p> <p>② 特別支援教育コーディネーターの情報交換会で共有し、対応を図ったが、不登校傾向の生徒の状況改善には至らなかった。</p> <p>③ いじめのアンケート調査（年3回）やホームルームなど学校生活の中で、指導を継続することにより防止に努めた。（0件）今後も、情報共有や共通認識に基づいた指導について徹底を図り、取り組む。</p> <p>④ 基本的な生活習慣の乱れ等の増加により、遅刻の減少について、目標値を達成できなかった。</p> <p>⑤ ものづくり立志事業や特定分野推進校の取組みによりキャリア教育推進やものづくり人材育成に取り組むことができた。【C】</p>
<p>進路指導の充実とキャリア教育の推進</p>	<p>①キャリア教育の全体計画に基づき、生徒の実態に応じたきめ細かな進路相談・進路指導を行い、生徒の進路希望の実現を達成する。</p> <p>②地域の関係する諸団体や地元企業と連携し、デュアルシステムの充実を図る。また、デュアルシステムの参加者を更に増やし、望ましい勤労観・職業観を育み、自らが進路選択できる力を身</p>	<p>① 就職希望者は3月末時点で、本人希望による進路を決定することができた。</p> <p>② I期48名、II期39名、III期8名が参加した。（昨年度のI期、II期、III期の合計は93名）来年度は参加条件等について検討を行い、改善を図る。</p> <p>③ 進路講演会等の取組は計画とおりに実施す</p>

	<p>に付けさせる。</p> <p>③コミュニケーション能力の伸長を図り、社会人としての資質を育て、進路実現につなげる。</p> <p>④進路実現を支援するために、指導・補習などを組織的・計画的に行い、第一志望の大学・企業等へ導く。</p>	<p>ることができた。よって、生徒の進路意識の向上につなげることができた。</p> <p>④ 学級担任・進路指導部・学科の連携により、進路実現のための指導を実施した。 【C】</p>
<p>健康・安全 特別支援教育の推進 防災教育の推進</p>	<p>①学級担任・教科担当・養護教諭は互いに連携し、スクールカウンセラーを活用して、教育相談活動を充実させる。</p> <p>②学校保健計画に基づく学校保健の取り組み、保健相談部を中心として、心身の健康及び体力保持増進について自ら考え行動できる力の育成を目指し、安心できる学校生活及び事故防止、健康的な生活習慣の確保を図る。</p> <p>③安全教育・防災教育の充実と突発的な事故や救急対応発生時の校内体制の確立を図る。</p> <p>④教科「人間と社会」では、防災技術講習会等を実施し、地域防災の担い手としての意識を育む。</p> <p>⑤1学年全員が上級救命士資格を取得できるように講習会を開催する。</p> <p>⑥校内の防災活動の充実。</p>	<p>① 担任・教科担当・養護教諭・スクールカウンセラー・との連携や教育相談活動は充実し、特別支援教育や生徒の心身の健康維持を図ることができた。</p> <p>② 学校保健の取組を計画通りに実施し、安心できる学校環境づくりに取り組んだ。</p> <p>③ 突発的な事故や救急対応については校内体制が整い適切に対応できた。</p> <p>④ 第1学年において、警視庁 災害対策課地域防災係や東京都水道局と連携を図り、防災講話を実施した。</p> <p>⑤ 東京消防庁ならびに東京防災救急協会及び協会ボランティアの方のご協力で、1学年全員に上級救命救急講習を受講させた。</p> <p>⑥ 年4回の避難訓練を実施した。 【C】</p>
<p>募集・広報活動の充実</p>	<p>①学校説明会、学校見学会、一日体験授業、部活動体験、年間を通じた授業見学などにより、本校の特色ある教育活動を校外に周知する広報活動を推進する。</p> <p>②ホームページやSNSを活用し、学校生活の様子を積極的に発信する。</p> <p>③全教職員による中学校訪問及び広報活動を行い、本校の特色や期待する生徒像を広く都民にアピールし応募を促進する。</p>	<p>① 見学会や相談会への参加など、広報活動の充実に取り組んだ。 ドリームフェスタに参加し、生徒が主体となったPR活動を行うことができた。</p> <p>② ホームページやSNSを積極的に活用した。 こまめな更新で情報発信を心掛けた。</p> <p>③ 中学校訪問や地域連携等で本校のアピールを実施した</p> <p>※第1次学力検査に基づく選抜応募倍率について昨年0.83倍、今年度は0.77倍であった。今後も工夫した募集・広報活動を継続する。 【B】</p>
<p>特別活動等の充実</p>	<p>①全体集会、学年集会、ホームルーム活動をとおして、帰属意識を高めるとともに、集団生活への適応を図る。</p> <p>②学校行事、ホームルーム活動、委員会活動を通して、自主性・協調性を養わせる。</p> <p>③部活動への参加率を高め、公式試合などを通して積極的に挑戦する気持ち、達成感を持たせる。</p>	<p>① 田無工五輪（体育祭）、文化祭（田無工祭）は、本校の特徴を最大限に活かした行事となり、日頃の活動の成果を見ることができた。</p> <p>② 学校説明会等では、生徒会、部活動生徒による案内など、自主的な取り組み姿勢について、来校者から高評価を得られた。</p> <p>③ 卓球部は、工業高校大会において、男子団体戦3位、女子個人戦準優勝。測量部は、ものづくりコンテスト関東大会に出場。歩く建築同好会は民間企業連携事業に参加し、得たことを生かして、アイデアコンテストに応募をした。 【B】</p>

経営企画室における経営参画の推進	① 学校経営計画の実現に向け、経営企画室の業務の充実を一層図るとともに、迅速な対応を行う。 ② 自律経営推進予算は、計画的に執行し、センター執行割合の一層の向上を図る。 ③ 空調設備改修工事において「安全第一」を念頭に置き、全教職員が協調して、円滑な学校運営が行えるように取り組む。	① 業務連絡を密にとりながら、学校経営実現に向けて協力体制を構築した。 ② 計画的な物品購入を心掛けたが、執行割合は50%を下回った。 ③ 全教職員の協力により、円滑な学校運営を行うことができた。2年間にわたる工事は無事終了した。【C】
ライフワークバランスの推進	① 年間を通じて計画的な年休取得を推進する。(10日以上年休取得) ② 閉庁日を設け、職員の休養を図る。(年間5日間) ③ 週1回の定時退勤日を各自で設定し、効率の良い業務処理を目指す。	① 計画的な年休取得はほぼ全員の教員が実施した。 ② 閉庁日は年間5日実施し、職員の休養を図った。 ③ 校内人員体制の関係から、分掌によっては業務が増大してしまったため、浸透には至らなかった。【C】

A：大きな成果が得られた B：昨年度より前進した C：昨年度並み D：取組や成果に課題が残る

(2) 重点目標への取組と自己評価【C】

- ① 第1次学力検査に基づく選抜応募倍率については、今年度1.0倍以上を数値目標に取組を進めたが、結果は0.77倍であった。3次募集まで実施したが最終的に3学科ともに定員を満たすことが出来なかった。今年度もNext Kogyo START Projectの施策の推進として、PRイベント（ドリームフェスタ）や民間企業連携事業の他、西東京市連携のヘルメットバットスタンドプロジェクト、次世代の人材育成を目指す工科高校の取組を広く世間にアピールすることに重点をおいた活動を行った。また学校見学会や説明会、部活動体験等、従来から実施している学校広報活動も幅広く展開し、説明会等参加者等は200名以上増加したが、目標達成には至らなかった。都立工科高校全体で応募倍率が低下傾向にあるが、今後もNext Kogyo START Projectや地域との連携を深めながら、広報活動による募集対策を組織的な取り組みで進める。
- ② 中途退学率については、昨年度に対して約1.4%増加した。また、転学者については、昨年度に比べ、減少した。学習意欲が不足している生徒について、工業科目の学習課題に粘り強く取り組むことができない傾向が見られ、キャリア教育も含めた個に応じた指導が一層求められる状況となっている。

3 次年度以降の課題と対応策

- (1) 学習指導の充実と学力向上については、日常の学習支援が必要な生徒の増加傾向がつついているため、全ての教科での補習の充実や学び直し対策を行う。具体的には担任と教科担当が情報を共有し、補講など、学習の不足を補うなどの活動を展開する。学力向上については、基礎学力テストの結果や定期考査結果等を分析、活用し、生徒の実態に即した指導を行う。今後も、観点別評価の実施に際し、指導と評価の一体化を推進する。
高等学校DX加速化推進事業において、専門的な外部人材の活用やICTを活用した探究的・実践的な学びを強化し、デジタル人材の育成を図る。
- (2) 生活指導については、日頃より頭髪・服装指導などを徹底し授業規律の乱れの防止を図る。具体的には、朝の立ち番指導や授業規律週間は次年度も継続し組織的な取り組みを行う。日常的な生活指導について、教員間の温度差を解消できるよう生活指導部と教科・学年の共通認識を図り、組織的な指導体制を構築する。SNSに関連した問題行動に関しては未然防止として、

ホームルーム等を利用し日常的な注意喚起を行う。また、いじめや暴力については、学校の姿勢を生徒・保護者に繰り返し示し、人権を尊重する態度を育成する。教職員は情報共有を行い協力して、いじめ・体罰防止に努め、それぞれ事故0件とする。

- (3) 進路指導の充実とキャリア教育、デュアルシステムの推進については、進路指導部の教員を中心に、学級担任や工業各科の全教職員の協力体制で取り組む。進学希望者についても、一定の進学基準に基づき指導を行う必要があり、本人や保護者にも丁寧な説明を行い、連携を図りながら進める。

キャリア教育は、来年度もデュアルシステムを中心とした計画を行うが、参加希望者減少の抑止対策として、参加条件の見直しを図ることなどが必要である。次年度も職業体験への参加者の割合を第Ⅰ期と第Ⅱ期で50%以上に設定し、更に協力企業との連携を強化し、推進する。

- (4) 健康・安全と特別支援教育の推進については、毎週水曜日と木曜日に年間76回のスクールカウンセラー相談を実施した。相談件数は、生徒83件、保護者5件、教職員321件 計409件であった。今年度も保健相談部、スクールカウンセラーと学級担任は円滑に連携を図ることができた。次年度もスクールカウンセラーとの全員面接の実施などを有効に活用し、学校と家庭との連携を強化し、保健相談部、学年などによる情報交換会や担当者会議の活性化を図り、学習支援の体制を更に強化していく。

- (5) 広報活動の充実については、中学校教員や保護者への募集対策を工夫し、本校についての理解を深めてもらい、応募倍率の回復に努める。募集対策は、来年度もホームページやSNSを通じて学校生活の様子を積極的に発信する。学校見学会、学校説明会、出前授業、ものづくり教室、中学校訪問、出張学校説明会などの他、ミニ見学会は継続実施する。また、専門学科に対する理解の促進を図る必要があることから、Next Kogyo START Project の取り組みに基づく、先端技術を利用した教育活動、課題解決型学習の充実、地域連携の強化に取り組む。